

YOKOHAMA CITY COUNCIL
OF
SOCIAL WELFARE

コミュニティワーカー
スタイルブック

地域がもっと元気になる日常術

[著]

西尾敦史



社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

まえがき

第1章 地域福祉時代のコミュニティワーク論

●1節◎ 地域福祉のねがい

1 「施設」から「地域生活」支援へ 1

2 ノーマライゼーションは生活の回復 3

3 基礎構造改革の流れ 5

4 総合性（トータル）と全体性（ホール） 6

5 専門主義と官僚制 8

●2節◎ 地域社会（コミュニティ）のみかた

1 日本の村落共同体と自治会・町内会 11

2 コミュニティとアソシエーション
～マッキーパーのコミュニティ論 13

3 縁の諸類型 14

4 コミュニティはつくりだしていくもの
～「広がれボランティアの輪」連絡会議の提言 17

5 ライフスタイルの小さな共同体 19

6 盛り上がり協力隊 20

●3節◎ コミュニティワークの実践モデル

1 ジャック・ロスマンの3モデル 24

2 コミュニティワーク実践の座標軸 30

第2章 横浜発 コミュニティワーカーとの対話編

●1◎ まちのなかでわくわくしたい 35
ワーカーズわくわく 中野しずよさん

●2◎ 弱いところがあるから仲間になれる 43
子どもネット・コスモス 八原 佳子さん

●3◎ ふるさとだと思える町に 49
杉田台自治会 桜井 重人さん

●4◎ 地域から何をしてもらおうかではなく、
地域に何ができるかだ 57
りんごの木 矢野 清さん

●5◎ みんなの交流の場 まみちゃんハウスをつくるのが夢 64
た・こ・や・き 奈良崎真弓さん

第3章 地域を元気にする日常術 5つのスタイル、21のヒント

●I 種まき系◎ 引き出し術

1 ひまそうに見える 77

2 敷居を低くする 78

3 否定しない 81

4 あの手この手で 82

●II 発芽系◎ きっかけ術

5 好きなことから出発する 86

6 安心感のある雰囲気をつくる 87

7 いいところを見る 88

8 関係性を促進させる 92

●III 開花系◎ 主客転倒術

9 テーブルをレイアウトする 94

10 ネーミングにこだわる 96

11 いつのまにかいない 97

12 答えをつくらない 98

13 頼りなく見える 100

●IV 果実系◎ 組み合わせ術

14 たのみ上手 103

15 つなぎ上手 104

16 ついで上手 105

17 ひらき上手 107

●V 土壌系◎ 仕込み術

18 寝かせておく 109

19 見ること、見られること 110

20 地域を離れる 112

21 オンとオフの切り換え 113

参考文献

あとがき ～カンカラ三線宣言 117

地域福祉のねがい

いま、なぜ「地域」なのか。「地域福祉」の時代といわれるのはなぜだろうか。そこには、地域福祉にこめられた「ねがい」がある。

社会福祉の分野においては、長い間「地域」はあまり実体のあるものとは言えなかった。それは社会福祉が戦後、貧困対策としてつくられ、そのサービスが「施設」を中心に提供されてきたからである。

昭和30年代にはじまる高度経済成長は、平成に入るまで常に右肩上がりの発展を続けてきた。税収も増えつづけ、福祉政策は国が立案し、地方行政が実施するという体制が基本であり、また、委託を受けた社会福祉法人も決められた予算(措置費)の中で、与えられた仕事をやっていけばよかった。行政には、まず地域の資源とか、住民との協働という意識はなく、住民との関係で言えば、住民からの要望を受け、住民のために、緊急性の高いサービスを制度化するのが行政の責務だと信じて疑わなかった。地域の力などあてにしなくてもよかったのである。

それが1980年代までの状況だった。しかし、ベルリンの壁が崩壊し、消費税が導入され、そしてほぼ同時にバブルがはじけた。

1 「施設」から「地域生活」支援へ

さて、長い間、社会福祉サービス提供の中心であり、今日もそうあり続けている場、それが「施設」である。

その社会福祉施設は、家族の機能を代替する役割がある。家族によって支えきれない事態が発生したときに家族を補完する機能がある。それは、つまり施設に「入所」することを意味する。自分の都合で「入所」する人は少なく、家族の事情で「入所」させられることが多い。昭和50年代まではこれを「収容」と呼んでいたのである。

家族関係は、基本的には代替不可能である。「私」にとっての夫、妻、父、母、

まちのなかでわくわくしたい

NPO 法人ワーカーズわくわく 中野しずよさん



きっかけは「お返し」

はじめたきっかけは、お返しだった。子どもが、年子と双子と4人で子育てが大変だったときに、ご近所にとってもよくしてもらったので、お返ししたいと思った。お返しの方法として、直接その人に返すといっても困ってない人だったので、めぐりめぐって返せばいいかなと。

そんなふうに恩返ししようと思って、PTAの役員をやったりして動いていたら、友達が増えてきた。内職もやってみて、内職を探している人、仕事をできる人を探していたりつないだりすると、意外や意外、うまくいって、人と人を結びつけることって、私うまいのかなあとほんやり思っていた。

生協でパートをしたり、組合員活動をしたりもして、それぞれが面白く、いろんな経験をした。今思えばそれが、コーディネーターのような動きをしていたということだと思う。